

取扱説明書及び部品表



自走マニパスブレッダ

SD-500



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**自走マニアスブレッダ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いています。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

 **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	9
各部の名称とはたらき	10
運転に必要な装着の取扱い	12
1. エンジン始動のしかた	12
2. エンジンスロットルレバー	
・チョークレバー	12
3. 走行クラッチレバー	13
4. 旋回クラッチレバー	13
5. 変速レバー	14
6. 作業クラッチレバー	14
7. ゲート	15
8. シート	15
9. 安全装置の取扱い	15
作業前の点検について	16
1. 点検一覧表	16
運転のしかた	17
1. 新車の取扱い	17
2. 走行順序	17
3. 停止順序	17
4. 走行時の注意	17
作 業 方 法	19
1. 作業手順と要点	19
2. 堆肥の積込み	20
3. 散布量の調節	20
4. 散布方法	21
5. 移動するときには	21
6. トラックへの積込み・積下ろし	21
7. トラック及びトレーラでの運搬	22
簡単な手入れと処置	23
1. カバーの取り外し方	23
2. エンジンの点検・調整	23
3. エンジンのエアクリーナ	23
4. エンジンオイルの点検と交換	23
5. 走行ミッションオイルの点検	24
6. クローラ張力の調整	25
7. 旋回クラッチの調整	25
8. 走行クラッチの調整	26
9. 駐車ブレーキの調整	26
10. 作業クラッチの調整	27
11. コンベアチェーンの調整	27
12. 各部のベルトの調整	28
13. 各部への注油、グリスアップ	29
14. 日常の管理について	29
15. 長期格納時の手入れ	29
16. 使用済廃棄物の処分について	30
不 調 診 断	31
付 表	32
1. 主要諸元	32
2. 主な消耗部品	33

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

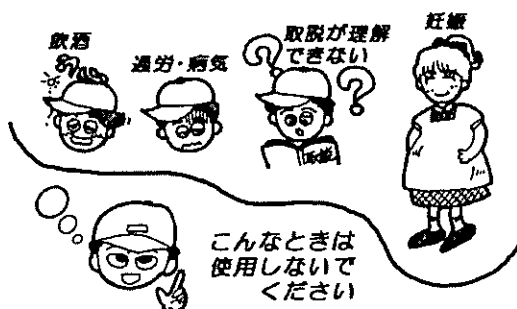
機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

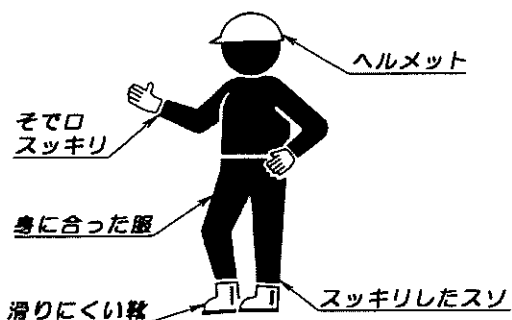
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。

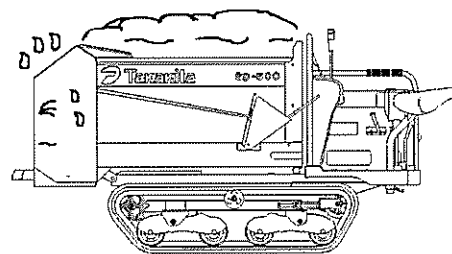


(3) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。

表示以上の積み過ぎは危険です。

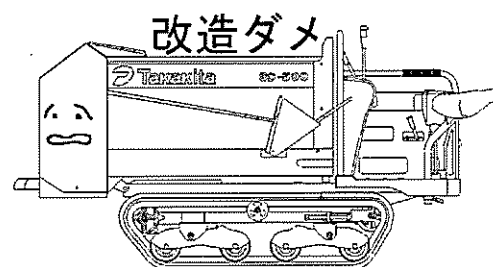
積載量は平地で500kg、傾斜地作業は最大傾斜15度までとし、そのときの積載量は300kgです。



(4) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



(5) 使用目的以外への使用禁止

堆肥を散布することを目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

⚠ 安全に作業するために

(6) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



(7) 運転者以外に人を乗せない

本機の乗車定員は1名です。運転者以外、人を乗せないでください。

2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

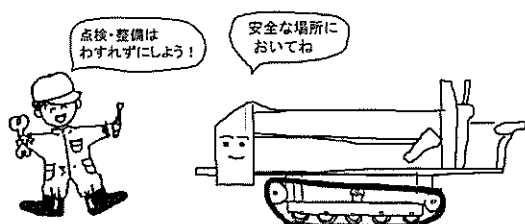


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でエンジンを止めてから行ってください。

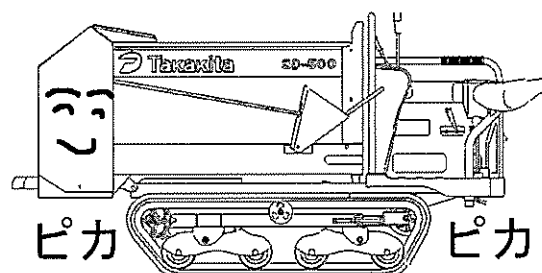


(4) 点検・整備は加熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷する恐れがあります。

(5) 機械を常にきれいに

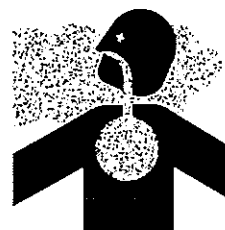
エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっていると、おもわぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



(6) 排気ガスには充分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

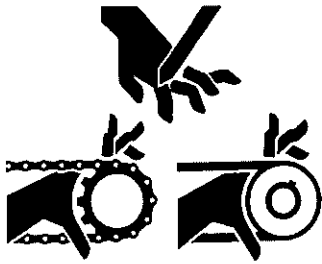
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、充分換気を行ってください。



⚠ 安全に作業するために

(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。
また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



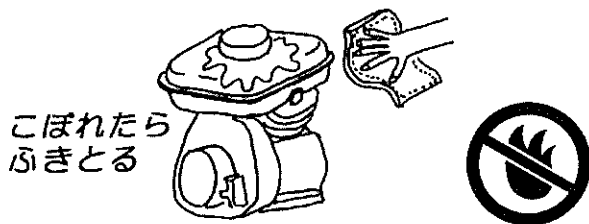
(8) 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草やマッチ・ライターなど裸火は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こす恐れがあります。



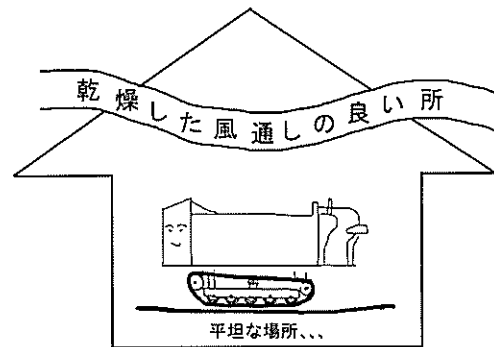
(9) こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(10) 長期格納するときは

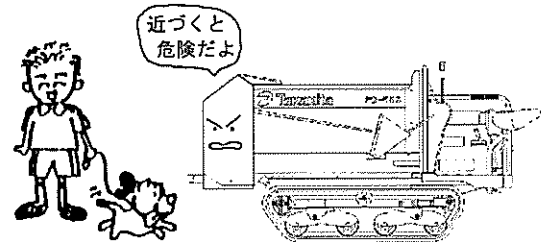
機械を清掃し、回転部およびチェーンには充分注油し、バッテリーを取外し、キーを抜き取り、屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づけないようにしてください。



(2) エンジンを始動するときは

作業クラッチおよび走行クラッチを切り、変速レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。

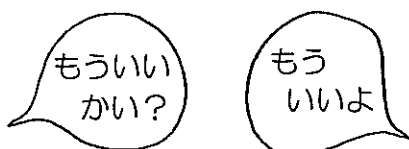
守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) 散布する堆肥の異物は取り除く

散布する堆肥には石・木片・鉄片などの異物を混入させないようにしてください。機械の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ方向へ飛散して危険です。



(5) 散布中は保護ガードより顔を出さない

散布中は運転席側にも堆肥などが飛散する場合があります。危険ですので、保護ガードより顔や頭を出さないでください。

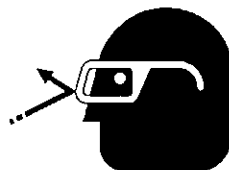
(6) 散布作業するときは

散布作業中は後方に堆肥が10m前後に飛散します。後方に人がいないことや障害物のないことを充分確認し、散布距離を考慮して作業してください。



(7) 保護メガネ着用

肥料や堆肥が飛散し、目や呼吸器に入る恐れがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを着用して作業してください。

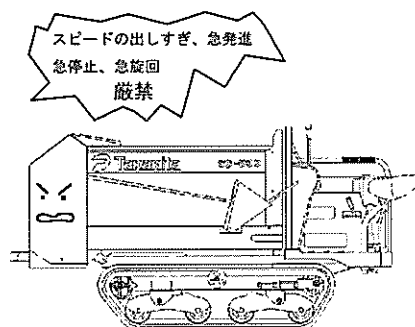


保護メガネ着用
保護マスク着用

(8) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。



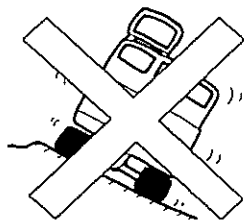
(9) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ① 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。斜面の作業は、必ず直角方向に走行してください。

⚠ 安全に作業するために

- ②チェンジ操作は行わず、変速位置をあらかじめ低速にして速度を下げ、特に下り坂ではエンジnbrakeを使用してください。



- (10) 回転中のビータやコンベアバー・コンベアチェーンには触れない

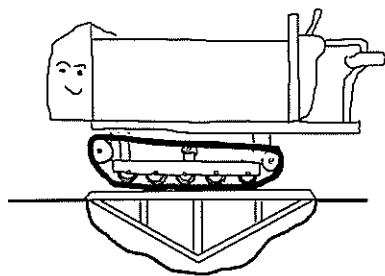
回転しているビータやコンベアバー・コンベアチェーンに、手や足を絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。

- (11) 移動及び作業の旋回の際は

旋回時に片方のクローラをあぜに乗り上げたり、あぜぎわでの急旋回は絶対に行わないでください。**転倒や脱輪の恐れがあり危険です。**

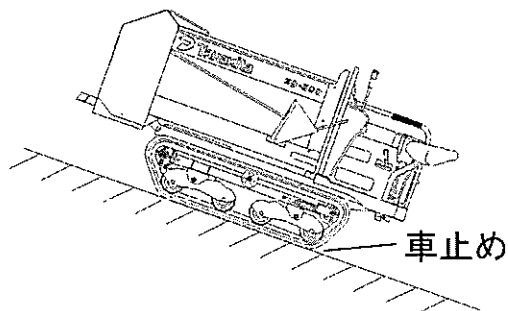
- (12) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



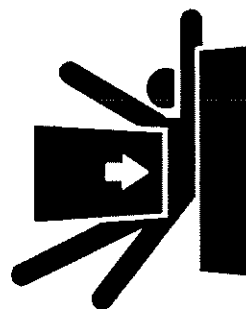
- (13) 作業途中で運転席より離れるときは
本機を止めておくときは、平坦な場所に置き、エンジンを停止し、変速レバーを低速に入れ駐車ブレーキをかけてください。

やむを得ず坂道に駐車するときは、車止めをしてください。



- (14) 後進して作業するときは

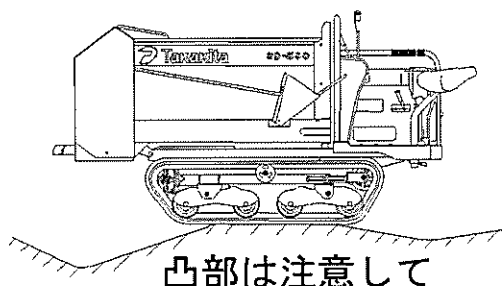
後方に障害物のないことを充分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。



⚠ 安全に作業するために

(15) あぜの乗り越え

畦畔を越えるときは、機体が上向きから下向きに急に変わるので十分に注意し、最低速度で畦畔に直角に越えるようにしてください。あぜがコンクリートであったり、高さが10cm以上のときはアユミ板を使ってください。

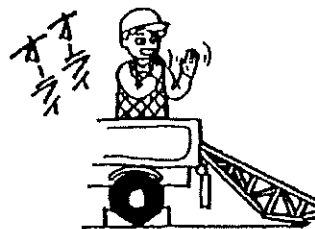


トラックなどで運送してください。

(2) トラックなどへの積み込み・積降ろし

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度でクラッチを使わずに行ってください。

積み込んだ機械は車止めをし、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。



(16) 高温油に注意してください

- ① 高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か充分温度が冷えてから行ってください。
- ② 火傷やケガを負った場合は、速やかに医者の診療を受けてください。



4. 道路走行・輸送するときは

(1) 公道は走行できません

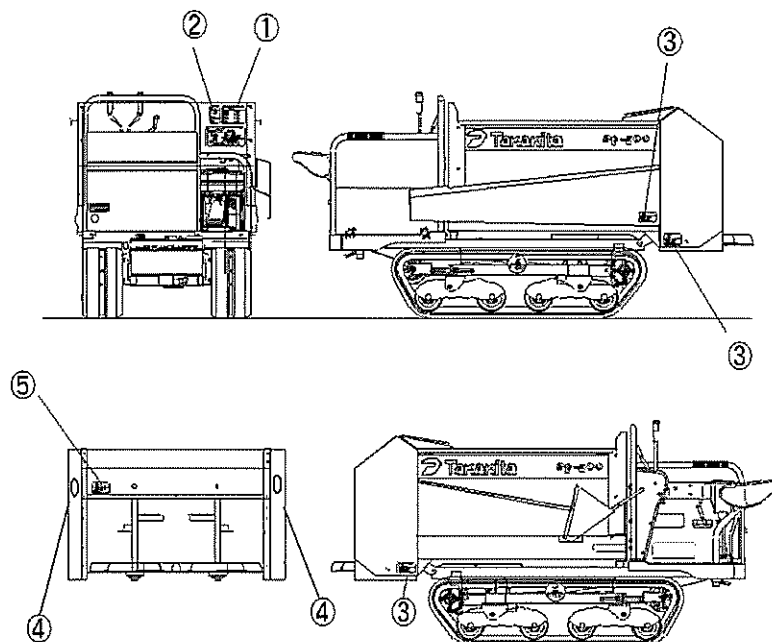
本機は公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、

以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 001204500042

②部品コード 001206001820

001204500042

⚠ 注意

1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟知するまでお読みください。 2. 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。 3. エンジン始動前に機械の周りに人がいないことを確認してください。 4. 作業中は人や動物を近づけないでください。 5. 運転席を離れるときは、必ず	エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。 6. 斜面での駐車時は歯止めをしてください。 7. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。 8. 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 9. 公道走行はできません。トラック等で運送してください。
---	--

001206001820

⚠ 警告

急発進・急加速
急旋回禁止

急発進、急加速、急旋回の操作は、厳禁です。守らないと、転倒や転落して、重傷を負う恐れがあります。

③部品コード 001206000800

001206000800

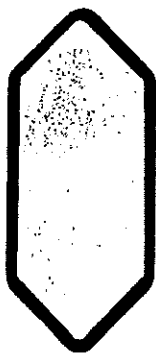
⚠ 注意

・カバーを取り外す時は必ずエンジンを止めてからにしてください。

・はずしたまま運転するとケガをするおそれがあります。

⚠ 安全に作業するために

④部品コード 001104100010



⑤部品コード 001206000910



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、牛糞などの堆肥を散布する作業にご使用ください。

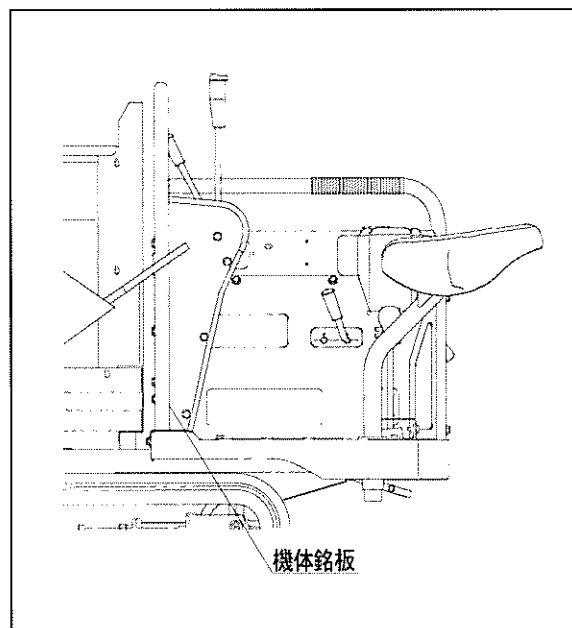
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

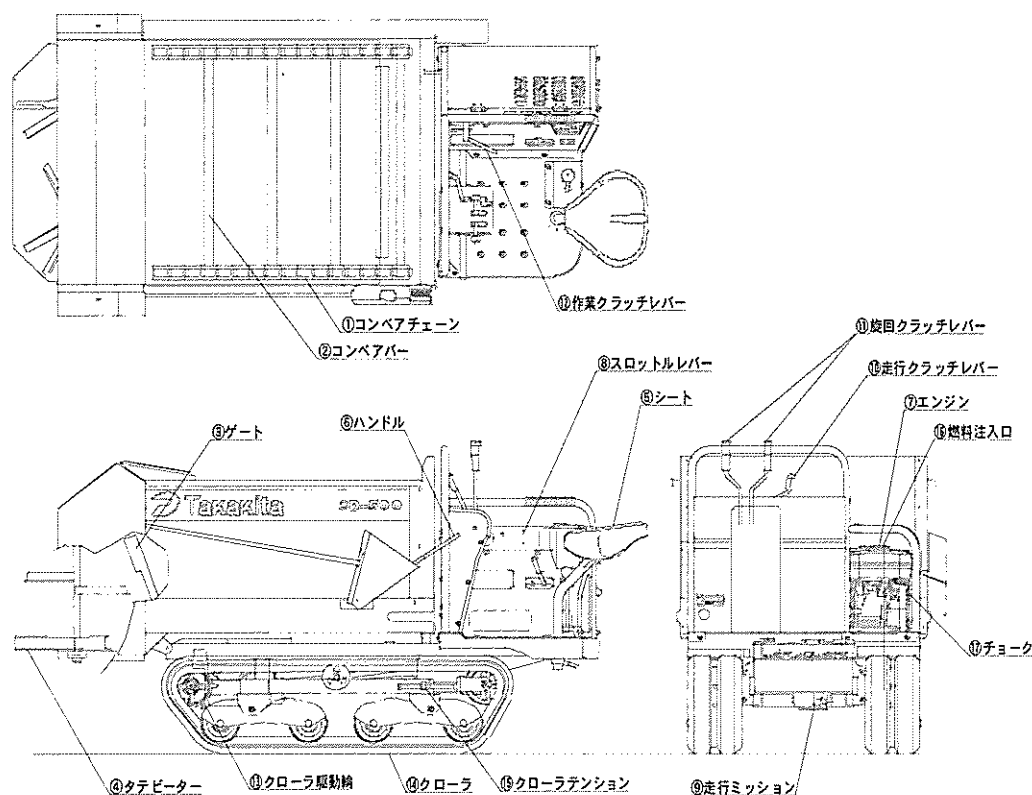
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体Noは、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	自走マニアスプレッダ
型 式	SD-500
機 体 No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき



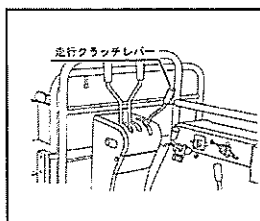
	番号	名 称	は た ら き	参照 ページ
機 能 構 成 部	1	コンベアチェーン	コンベアバーを連結します。	27
	2	コンベアバー	堆肥を後方のタテピーターまで運びます。	—
	3	ゲート	移動時の堆肥の後方へのこぼれを防止するとともに、散布時に堆肥の定量送りをします。	15
	4	タテピーター	コンベアバーで運ばれてきた堆肥を散布します。	—
	5	シート	作業者の座席です。	15
	6	ハンドル	ゲートの開度調整をします。	15
動 力 伝 達 構 成 部	7	エンジン	動力源、燃料はレギュラーガソリンを使用します。	12
	8	スロットルレバー	エンジン回転速度を調整します。	12
	9	走行ミッション	走行部のクローラへの動力伝達をするミッション。	24
	10	走行クラッチレバー	走行の「入」「切」を操作するレバーです。	13
	11	旋回クラッチレバー	左右に旋回する時に操作するレバーです。	13
	12	作業クラッチレバー	タテピーター、コンベアの動作の「入」「切」を行います。	14
	13	クローラ駆動輪	クローラを駆動させる側の駆動輪です。	—
	14	クローラ	ゴム製の走行覆帯です。	—

各部の名称とはたらき

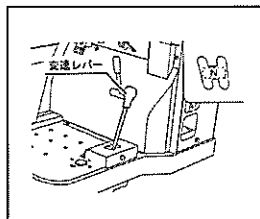
	番号	名 称	は た ら き	参照 ページ
操 作 関 係 部	1 5	クローラテンション	クローラの張り具合を調整します。	25
	1 6	燃料注入口	エンジンの燃料タンクの注入口です。(タンク容量 3.6ℓ)	—
	1 7	チョーク	エンジンを始動するとき「閉」位置にします。。	12

運転に必要な装置の取扱い

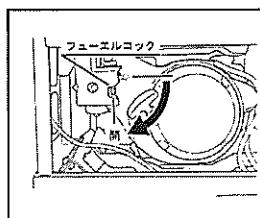
1. エンジンの始動のしかた



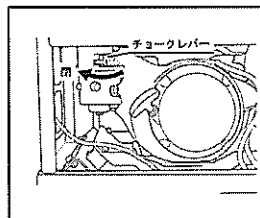
- ① 走行クラッチレバーが「切」か「駐車」の位置にあることを確認してください。



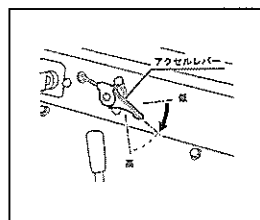
- ② 変速レバーが「N」ニュートラルにあることを確認してください。



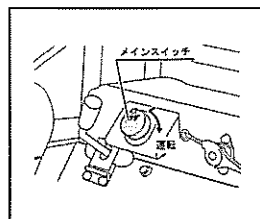
- ③ フューエルコックを「開」にしてください。



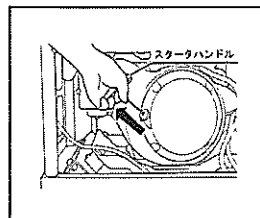
- ④ チョークレバーを「閉」にしてください。
・エンジンが暖まっているときはこの操作は必要ありません。



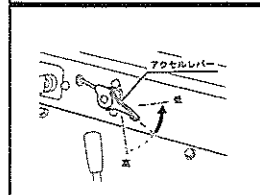
- ⑤ アクセルレバーを「高」側に少し動かしてください。



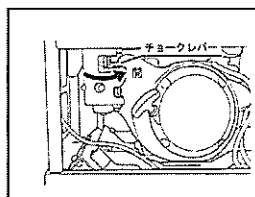
- ⑥ メインスイッチを押したまま右に回し「運転」にしてください。



- ⑦ スタータハンドルを勢いよく引き、エンジンを始動してください。



- ⑧ エンジン始動後、アクセルレバーを「低」にしてください。



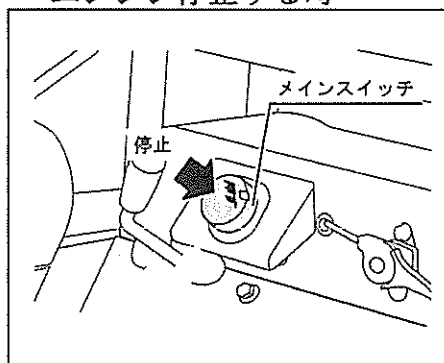
- ⑨ チョークレバーを戻してください。

- ⑩ 約 5 分間、無負荷で暖気運転してください。

注意

- ◆最初の約 40～50 時間はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

エンジン停止する時



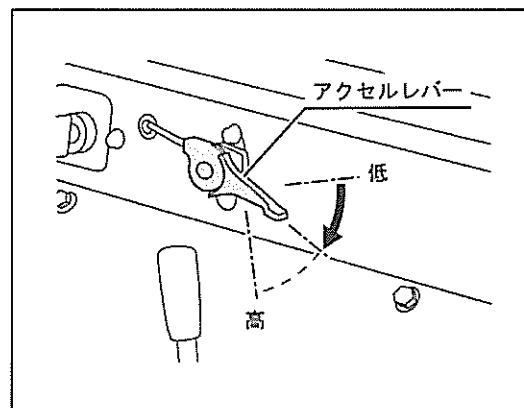
メインスイッチを押して、エンジンを停止してください。

メインスイッチを押すと自動で「停止」になります。

2. エンジンスロットルレバー・チョークレバー

◆エンジンスロットルレバー

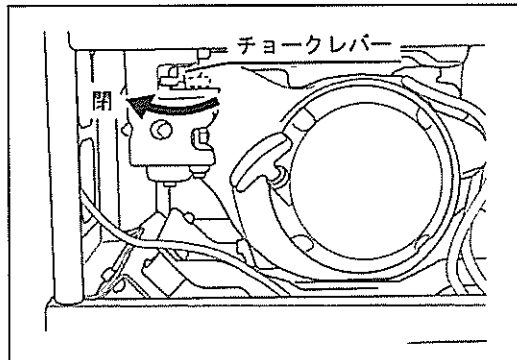
エンジンの回転速度を調整するレバーです。下図のように下方へ引く程、エンジンの回転速度が高くなります。



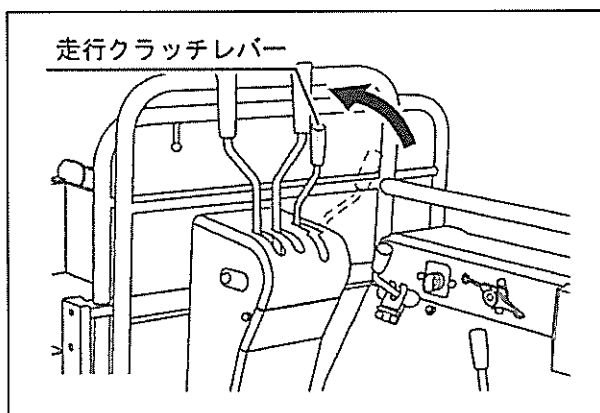
運転に必要な装置の取扱い

◆チョークレバー

エンジンが冷えている時に始動する場合は、チョークレバーを引き「閉」にして始動してください。



3. 走行クラッチレバー



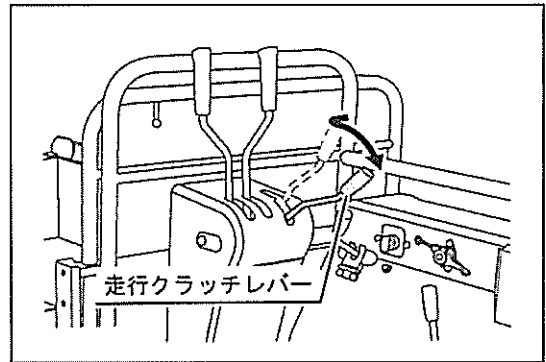
◆走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを上図のほうに倒すと入力が入り車両が発進します。発進時は危険防止のため、ゆっくりとレバーを操作してください。

注意

- エンジンがアイドリング状態で走行クラッチレバーを入れると、エンジンがストップする場合があります。エンジンの回転速度をある程度上げてから、走行クラッチレバーを入れてください。

◆駐車ブレーキ



走行クラッチレバーを、手前に倒すことで駐車ブレーキがかかります。駐車する時は、平坦な場所に停車してください。

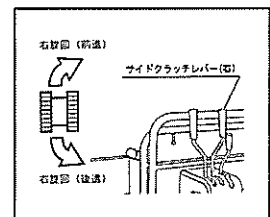
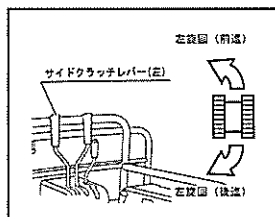
注意

本機から離れる時には、必ず駐車ブレーキをかけておいてください。走行中は駐車ブレーキを解除してください。

警告

本機に装着されているブレーキは駐車ブレーキであり、制動ブレーキではありません。

4. 旋回クラッチレバー



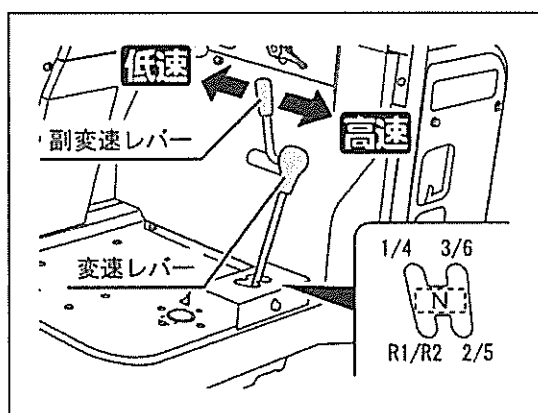
右に旋回するときは、右のクラッチレバーを引き、左に旋回するときには、左のクラッチレバーを引いてください。機体を旋回させる時は速度を落とし、数回にわけてゆっくりと旋回してください。

運転に必要な装置の取扱い

！ 警告

- 高速走行時、ハンドルを急操作すると、急旋回して危険ですので注意してください。
- 砂利道での急旋回は、クローラに石がかみ込む恐れがあるのでさけてください。
- 旋回時に片方のクローラをあぜに乗りあげたり、あぜぎわでの急旋回は絶対に行わないでください。守らないと、転倒したり、クローラが外れたりする恐れがあり危険です。

5. 変速レバー



本機の走行速度を選択するレバーです。

《車速選択の目安》 (km/h)

	変速	車速
走行速度	前進 1 速	0. 6
	前進 2 速	1. 0
	前進 3 速	1. 6
	前進 4 速	2. 2
	前進 5 速	3. 7
	前進 6 速	6. 0
	後進 1 速	0. 5
	後進 2 速	1. 9

※作業速度は使用条件により誤差が発生します。

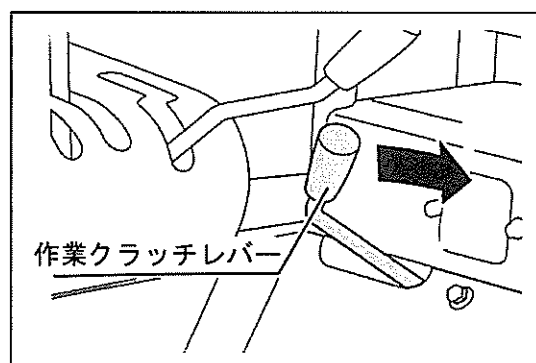
- ・変速レバーが入りにくい時は、走行クラッチレバーを「走行」側に少し動かして

から再度入れ直すと入りやすくなります。

注意

変速レバーの切換えは走行ミッションを傷めないよう、必ず走行クラッチレバーを切り、機体が完全に停止した状態で行ってください。

6. 作業クラッチレバー



作業クラッチレバーを前方に倒すと、クラッチが「入」となり、タテビーターが作動します。

作業クラッチレバーを後方に倒すと、クラッチが「切」となり、タテビーターが停止します。

！ 警告

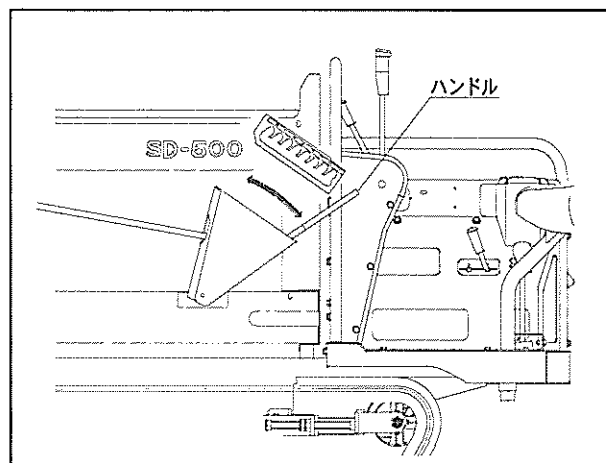
- 作業クラッチレバーを「入」にするときは、まわりに人がいないことを確認のうえ、ゆっくりとつないでください。
- エンジン始動時は、突然タテビーターが動きださないよう、作業クラッチは必ず「切」にしてください。

注意

作業クラッチを切らないでエンジンを始動すると、エンジンスタータが破損する場合があります。

運転に必要な装置の取扱い

7. ゲート



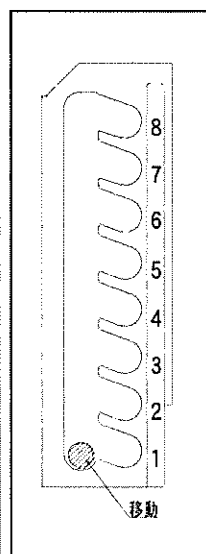
ゲートの高さは8段階に調整できます。

◆ゲートの調整方法

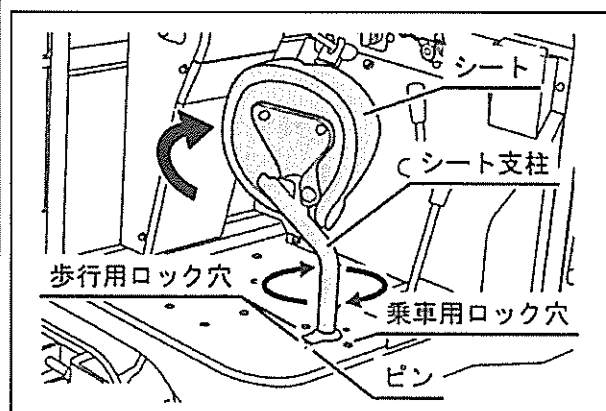
ハンドルを上下させることで開度調整ができます。

- ・ハンドルを上下させ、ゲートが希望の開度になる位置にハンドルを入れてください。

- ・移動時は左図移動の位置にしてください。



8. シート



◆シート位置の調節

シート支柱を少し持ち上げて回転し、支柱基部のピンをロック穴に入れ固定します。

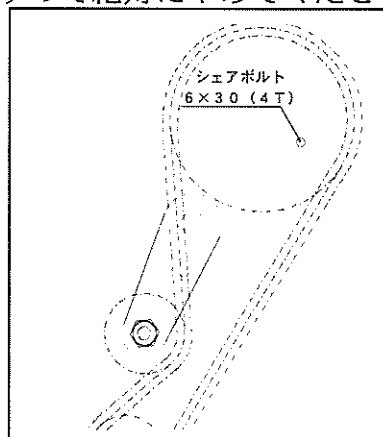
9. 安全装置の取扱い

- ・安全装置として、ビータ駆動部、コンベア駆動部にシェアボルトがあります。

◆ビータ駆動部のシェアボルト

右側面カバー内にあります。切損した場合、必ずエンジンを停止し穴を合わせてボルトを入れます。

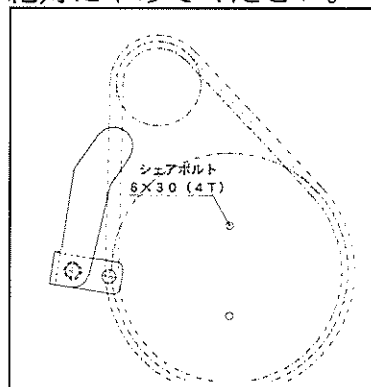
使用するボルトは、M 6 × 3 0 - 4 T 半ネジ（1本）のみです。それ以外のボルトを使用すると故障の原因となりますので絶対にやめてください。



◆コンベア部のシェアボルト

左側面カバー内にあります。切損した場合、必ずエンジンを停止し穴を合わせてボルトを入れます。

使用するボルトは、M 6 × 3 0 - 4 T 半ネジ（1本）のみです。それ以外のボルトを使用すると故障の原因となりますので絶対にやめてください。



◆シェアボルトがよく切損する場合

堆肥の塊等を取り除いて作業してください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどをする恐れがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。まもらないと火災の原因となります。

点検一覧表

項 目		内 容	参照ページ	チェック
本機を廻って	前回使用の異常箇所	修理、補修が完全に行われているか	—	
	損傷・汚れ・ボルトの緩み	車体の損傷、緩み、ガタつきがないか	—	
	クローラの張り	適正な張力	25	
	エンジンオイル	オイル量と漏れ	23	
	エンジンの燃料	燃料（ガソリン）の汚れがないか	(エンジンの取説)	
	エンジンのエアクリーナ	エアクリーナの汚れ（重要）	23	
	配線コード	コードの被覆のはがれ、接続部の緩み	—	
	各部への注油・グリスアップ	各部への給油参照	29	
エンジンを始動して	走行クラッチレバー	「入」「切」の作動確認	13	
	駐車ブレーキ	作動確認	13	
	作業クラッチレバー	「入」「切」の作動確認	14	
	旋回クラッチレバー	スムーズな作業	13	
	エンジン音	異音がないか	—	

運転のしかた

1. 新車の取扱い

新車は、使用時間50時間までの取扱いが大変重要です。この時期以後の自走式マニアスプレッタの寿命、性能に大きく影響します。

◆最初の20時間目の手入れ

エンジンオイルを交換してください。

◆最初の50時間までの取扱い

①重作業、急発進、急ブレーキなどは避けてならし運転をしてください。無理な作業をしますと摩耗を早めます。

②マニアスプレッタ部のコンベアチェーンの張り具合を確認し、調節を行ってください。

◆100時間目の手入れ

ミッションオイルを交換してください。

◆作業する前に

①エンジンはアイドリング（無負荷、低速回転）で暖気運転を5分間行ってください。暖気運転は、エンジンの各部の潤滑をよくし、自走マニアスプレッタの寿命を延ばします。また、冬に限らず暖気運転を行う習慣をつけてください。

②空ふかしはやめてください。

③ボルト、電気配線などのゆるみ、その他不良はないか確認してください。

注意

暖気運転中は、走行レバーを駐車にしてください。

2. 走行順序

！ 注意

- 発進するときは周囲の安全を確かめて発進してください。
- 作業中および移動時は、安全のためにヘルメットをかぶってください。
- 作業者の他に人を乗せないでください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は路肩に充分注意してスピードを落として走行してください。

①エンジンを始動させてください。（P12 参照）

②変速レバーにより走行速度にあわせてください。（走行ペダルを踏んだ状態で変速してください。）

現場の状況や積載重量に合わせ、速度を決定してください。

③走行クラッチレバーを「入」にすると、クラッチがつながり走行します。

注意

●エンジンを始動させる前に走行クラッチレバーが「切」か「駐車」の位置にあることを確認してください。

●エンジンが始動すれば、5～10分間暖気運転し、その後作業に入ってください。（長持ちするための秘訣です。）

3. 停止順序

①アクセルレバーを「低速」にし、エンジン回転を下げ、車両を減速します。

②走行クラッチレバーを「切」にします。傾斜地では走行クラッチレバーを「駐車」にいます。

③メインスイッチを「停止」にします。（P12 参照）

注意

●坂道の停車ではエンジン停止後、変速レバーの位置を1またはR1にしてから下側のクローラと地面の間に車止めをして下さい。

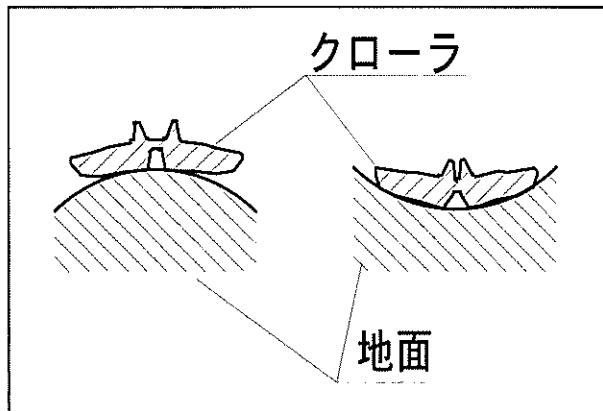
4. 走行時の注意

①下記の様な路面で走行すると、ゴムクローラの接地面側に傷が発生し易いので、なるべく避けてください。やむをえず走行する場合は、急旋回をやめ、ゆっくり走行してください。

- ・ 碎石を敷いた路面
- ・ 石の多い路面
- ・ 切り株の多い路面

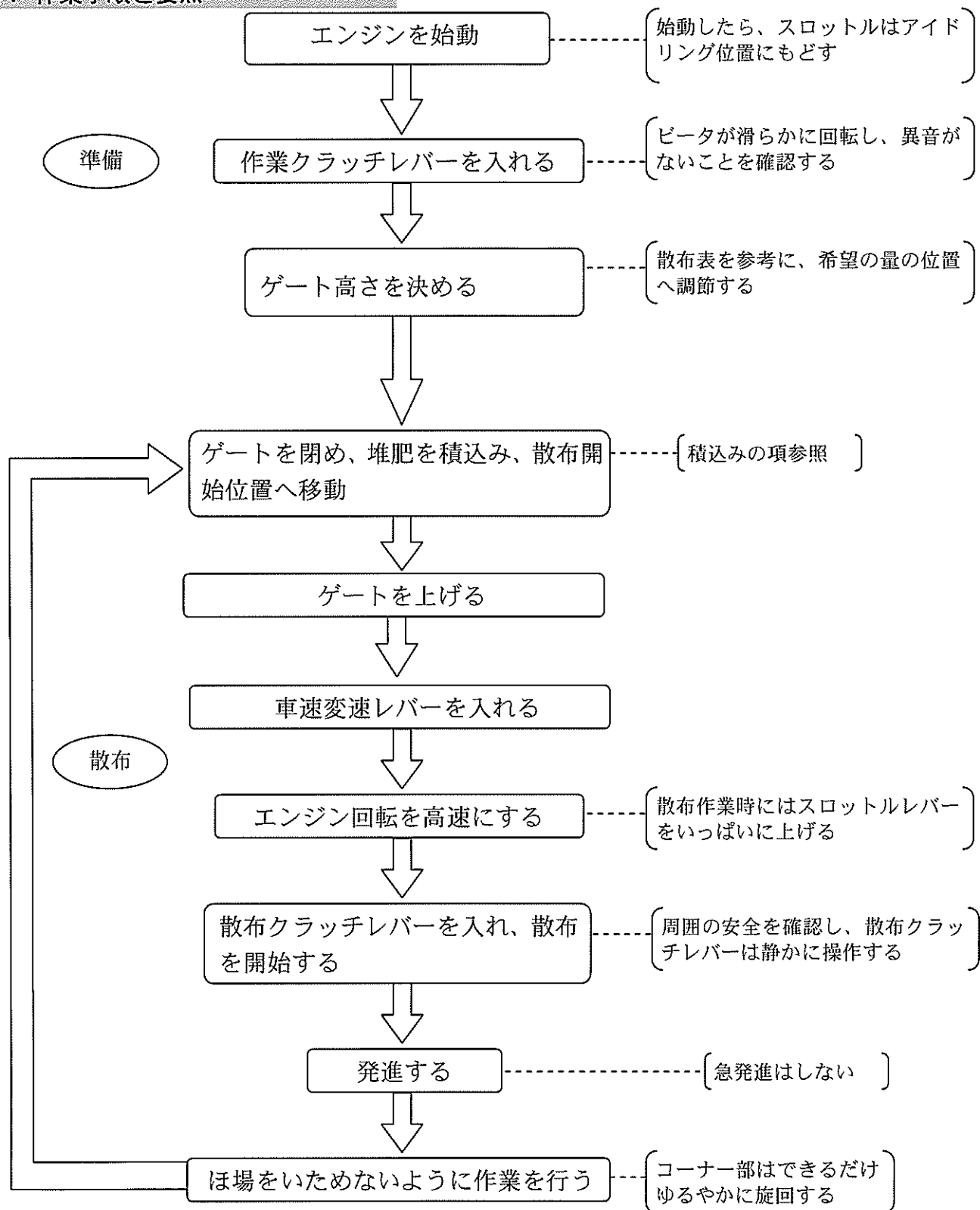
運転のしかた

②下図の様な断面形状の路面では、脱輪が発生しやすいので、ゴムクローラのと転輪が外れないようにゆっくりと走行してください。



作業方法

1. 作業手順と要点



注意

- 最終散布で堆肥がビータ近くにきたら、エンジン回転を下げて散布してください。
(最後の少量が運転席の方向に飛び散るのを防止するためです。)
- 散布を続ける場合は少量を残し、再び積込みを行ってください。

作業方法

2. 堆肥の積み込み

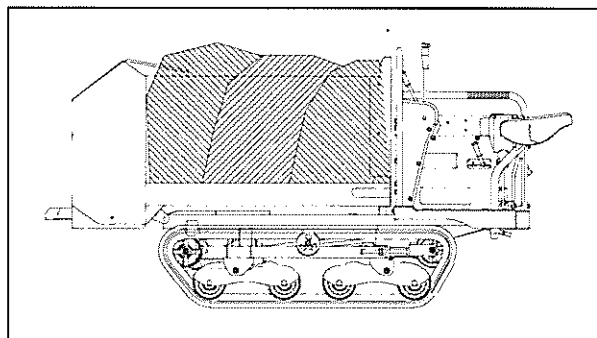
警告

- 本機の積載量は500kgです。規定以上の積み込みを行うと機械が破損するだけでなく、安全な走行・作業が行えません。十分注意してください。
- 堆肥に石や木片が混入すると危険です。積み込む時に十分注意してください。

- ①本機を水平な場所に移動し、エンジンを停止して駐車ブレーキをかけてから堆肥の積み込みを行ってください。
- ②堆肥を荷台に積み込む場合には前方から後方の順に積み込むと、堆肥がほぐれやす

くなります。

ワラ入り未完熟堆肥のような負荷の大きい堆肥を散布する時には、積み込み量を若干少なくするようにしてください。



3. 散布量の調節

◆10aあたりの散布量 (kg/10a)

	前進						後進	
	前進3速(1.6km/h)		前進4速(2.2km/h)		前進5速(3.6km/h)		後進2速(1.9km/h)	
	完熟	未完熟	完熟	未完熟	完熟	未完熟	完熟	未完熟
開度 1	900	-	650	-	400	-	760	-
開度 2	1125	-	815	-	500	-	940	-
開度 3	1840	1070	1055	777	580	475	1100	900
開度 4	2400	1395	1380	1660	760	1010	1435	1920
開度 5	3190	1855	1830	2200	1005	1345	1905	2550
開度 6	4160	2420	2390	2875	1315	1760	2490	3330
開度 7	-	3120	3080	3705	1690	2265	3205	4290
開度 8	-	-	-	4405	2010	2690	-	-

- ・堆肥の散布量はゲート位置、と車速（作業速度）とで調節します。
- ・ゲートは8段階に調節できます。
- ・上表を目安に10a当りの希望の散布量に合ったゲート位置、車速を決めてください。

注意

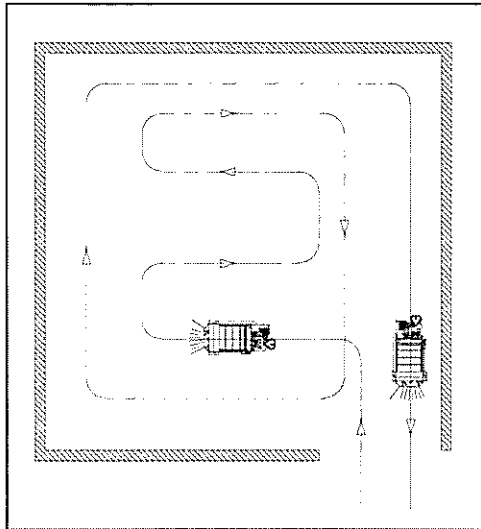
- 散布表はあくまで目安としてください。堆肥の状態により散布量は異なりますので、実際の散布量を見て調節してください。

警告

回転中のビータ・コンベアバー・コンベアチェーンに巻き込まれると重傷を負います。手や足を絶対に触れないようにしてください。

作業方法

4. 散布方法



散布方法は、ほ場の中央部より外側に向かって散布します。

中心部は往復散布、ほ場の外側は廻り散布を行うと能率的でクローラへの堆肥付着も少なくてすみます。

注意

- 散布は4速、または5速で行ってください。なじみ運転期間中は4速で行ってください。
- 傾斜地では、作業に充分注意して安全速度で行ってください。

！ 注意

- 散布作業時は、周囲に人がいないか十分に注意してください。
- 散布中は、堆肥中に混入した小石などが前方へ飛散する場合がありますので決してマニアボックス内へ顔を出さないでください。

5. 移動するときは

本機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラック等で運搬してください。

6. トラックへの積込み・積降ろし

トラックへの積込み・積降ろしは、次の要領で行ってください。

おもわぬ事故につながる恐れがありますので積込み、積降ろしとも十分注意してください。

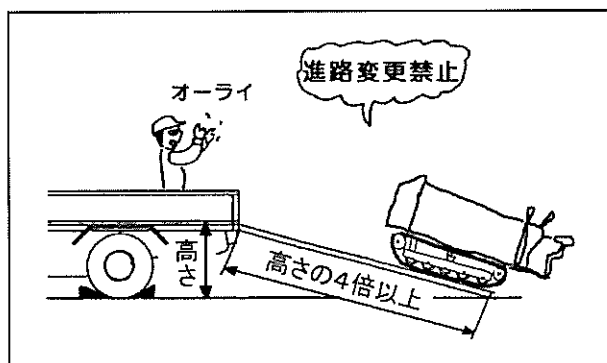
！ 警告

- 積込み・積降ろしの場所は、周囲に危険物のない、平坦で安定した場所を選んでください。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実にかけてください。
- 機械が不意に動いたときに危険ですので、周囲には立たないでください。
- 旋回クラッチレバーを操作してアユミ板の上での進路変更は絶対に行わないでください。
クローラがアユミ板から外れて転倒する恐れがあります。
- アユミ板とトラックの継ぎ目を越える時は、急に重心が変わりますので十分に注意してください。
特に、スピードの速い時には転倒の恐れがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

- ① トラックおよびトレーラへの積込み・積降ろしは平坦地を選び、補助者1名の立合いのもとで行ってください。
- ② 積込み・積降ろしに使用するアユミ板は滑り止めの加工のある1本で500kg以上の荷重に耐えられるものでトラック荷台高さの4倍以上の長さのものを

作業方法

- ③アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実にかけて外れないことを確認してから、本機の積降ろしを行ってください。
- ④積み込み時の車速は最低速度で安全運転をしながら行ってください。
- ⑤トラックおよびトレーラへの積み込みは必ず、前進走行で行ってください



7. トラックおよびトレーラでの運搬

⚠ 警告

丈夫なロープを本機にかけ、確実に固定し、本機の駐車ブレーキをかけてください。

守らないと、急ブレーキをかけた時などに荷台から本機が転落する恐れがあります。

本機を運搬する時は積載量1.0t以上で十分な広さを有するトラックまたはトレーラを使用し、運転には坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。

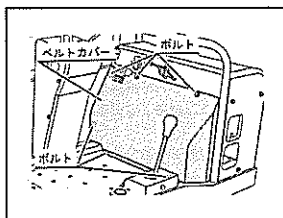
簡単な手入れと処置

警告

- 各部のカバーを開けたり、調整をする時は、必ずエンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。
- 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

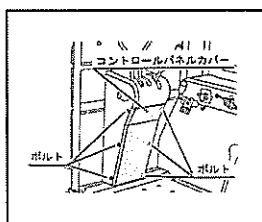
1. カバーの取り外し方

ベルトカバー



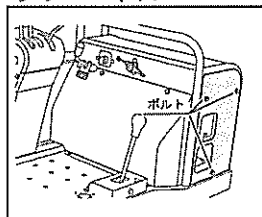
ボルト(7本)を緩め、ベルトカバーを取り外します。

コントロールパネルカバー



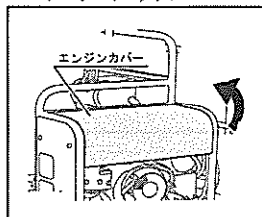
ボルト(6本)を緩め、コントロールパネルカバーを取り外します。

リアパネル



ボルト(3本)を緩め、リアパネルを取り外します。

エンジンカバー



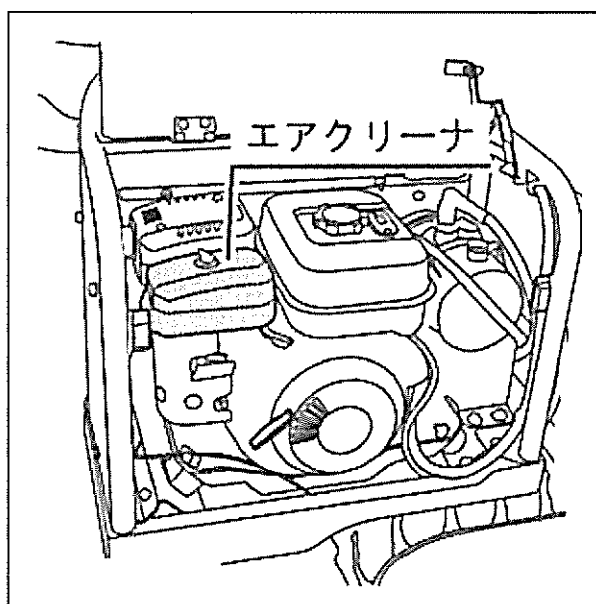
エンジンカバーを持ち上げ開きます。

2. エンジンの点検・調整

※ エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全を願います。

3. エンジンのエアクリーナ(重要)

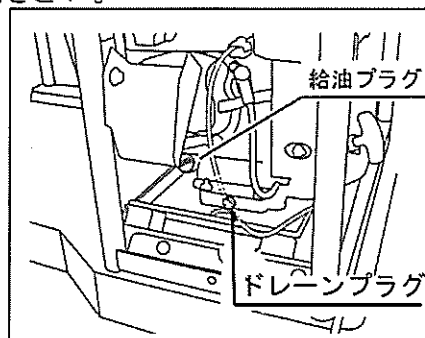
本機はホコリの多い環境で使用されるため、エアクリーナの点検・清掃が大変重要となります。下記に従い、作業前には毎日点検・清掃を行ってください。守らないと、エンジンが不調となるばかりでなく、エンジンの摩耗が早まり寿命が大きく低下する原因となります。付属の「エンジンの取扱説明書」に従って清掃・交換願います。



4. エンジンオイルの点検と交換

◆オイル量の点検

運転前に必ずオイル量を点検し不足している場合は、正規油面まで補充してください。



簡単な手入れと処置

◆オイルの交換

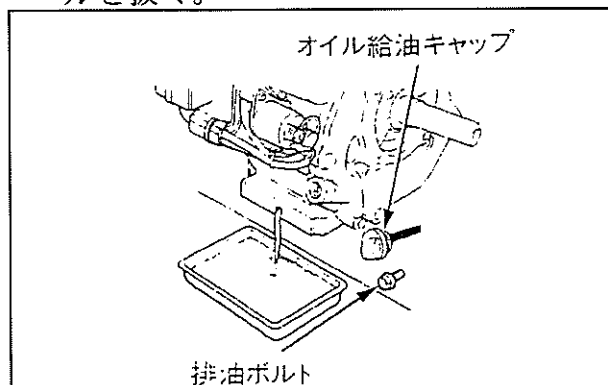
エンジンオイルの交換時期

初回 : 20時間後

2回目より : 50時間毎

①リアパネルを外す。(P23 参照)

②ドレーンプラグをはずし、エンジンオイルを抜く。



③ドレーンプラグをきれいに洗い、確実に締付けてください。

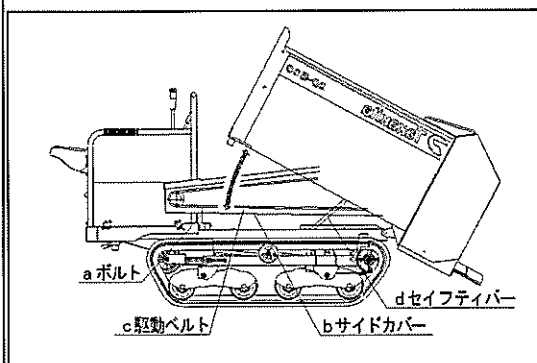
④エンジンオイル 0.6ℓ (10w-30) を計量してジョッキに入れ、注油してください。

⑤オイルが規定量入っているか、確認してください。

! 注意

熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので、エンジン始動前かエンジン停止後約 10 分たってから行ってください。

5. 走行ミッションのオイル交換

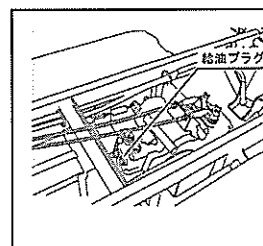
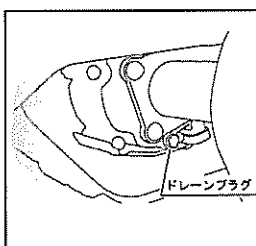
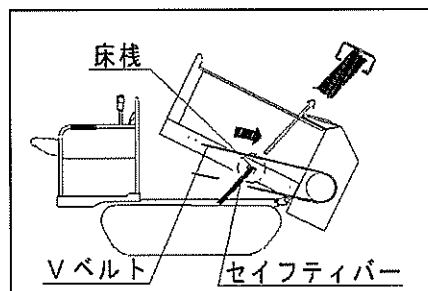


① b のサイドカバーを取り外して c の駆動ベルトを外してください。

② a のボルト M8(2 本) を取り外し機体を持ち上げ d のセーフティバーを固定してください。

! 注意

- ・ダンプ時は、機体が安定した水平な地面で行ってください。
- ・ダンプ時にはセーフティバーの先端を、図示の床栈に入れて固定してください。
- ・また、コンベアバーで入らないときは V ベルトを矢印のほうに回してコンベアバーを移動させて床栈にセーフティバーを入れて固定してください。
- ・固定位置を守らないと荷台が落下して傷害の恐れがあります。



③ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。

④ドレーンプラグを取り付けます。

⑤給油プラグを取り外します。

⑥給油口より指定オイルを補給します。

⑦給油プラグを取り付けます。

ミッションケースに検油栓まで指定オイルが入っていることを確認し、不足している場合は注油口から検油栓の位置まで給油してください。

簡単な手入れと処置

メインケースー 1.50

指定オイル

● ギヤオイル

SAE分類 # 80

API分類 GL4 または 5

● オイル交換時間

1回目 : 50時間

2回目以降: 年1回シーズン初め

6. クローラ張力の調整

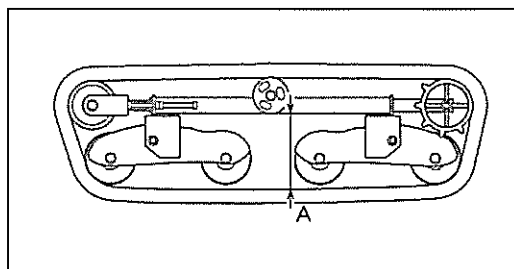
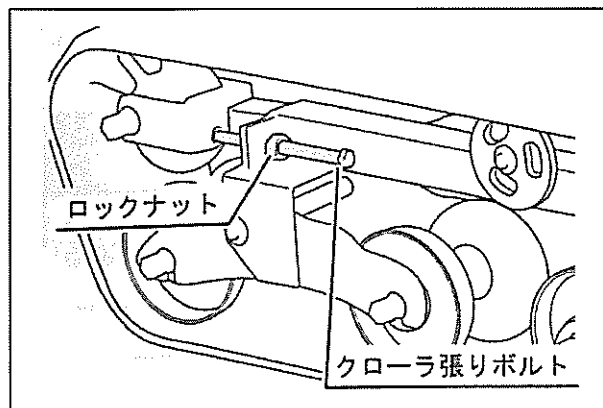
クローラは新品時には初期伸び、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが生じるため調整が必要です。クローラの張りが正常でないと、脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮める原因になります。

- ①車体を水平な場所に置きます。
- ②ジャッキアップ等して片側のクローラを地面から平行に浮かせます。

⚠ 注意

ジャッキ等が外れないように充分注意してください。

- ③クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。
- ④クローラ張りボルトを回して、クローラとトラックフレームの隙間(A)が205~210mmの範囲に調整します。
- ⑤調整後、ロックナットを締付けます。



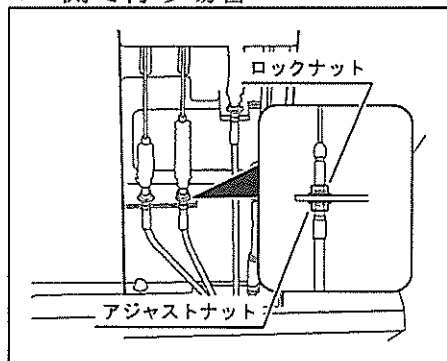
注意

- 調整は平坦地を選び、エンジンを停止してから行ってください。
- 調整後、ロックナットは確実に締め込んでください。
- ボルトのネジ部に調整後、グリスを塗布しておくことで錆の発生を防ぎ、以降の調整が容易となります。
- クローラの張りすぎにご注意ください。作業中、クローラ内接面に土が多量に付着した場合は、都度エンジンを停止し除去してください。また、使用後は付着した土を水洗い除去してください。土噛みは放置しておくことで、クローラの異常張力の原因となり、走行ミッション及び走行部の損傷をまねきます。

7. 旋回クラッチの調整

長期間使用している間にサイドクラッチの各部に遊びが発生し、調整が必要となります。

◆レバー側で行う場合

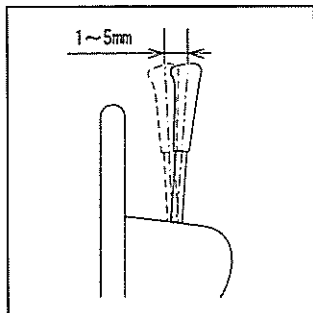


- ①コントロールパネルカバーを外します。(P23 参照)
- ②ロックナットを緩めます。
- ③旋回クラッチレバーの遊びが1~5mmに

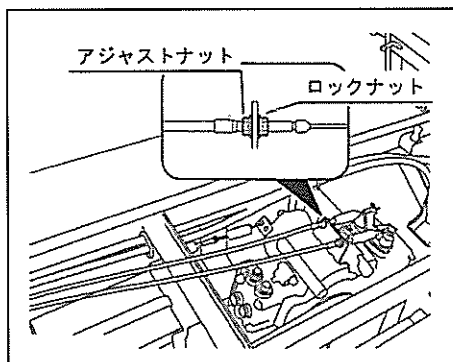
簡単な手入れと処置

なるようにアジャストナットで調整します。

- ④ロックナットを締め付けます。
- ⑤コントロールパネルカバーを取り付けます。



◆ミッション側での調整方法



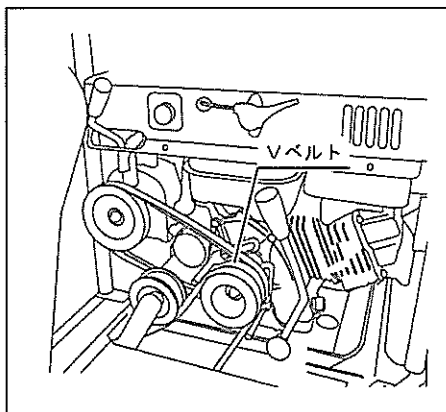
- ①機体をダンプさせてください。(P 24 参照)
- ②ロックナットを緩めます。
- ③旋回クラッチレバーの遊びが 1~5mm になるように調整します。
- ④ロックナットを締め付けます。
- ⑤機体を元にもどします。

注意

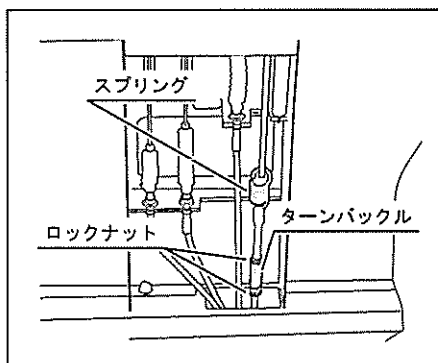
- 調整は平坦地を選び、エンジンを停止してから行ってください。

8. 走行クラッチの調整

走行中Vベルトのスリップ等が見られましたら調整してください。
ターンバックルで調整してください。



- ①コントロールパネルカバー、ベルトカバーを取り外します。
- ②走行クラッチレバー「入」にします。

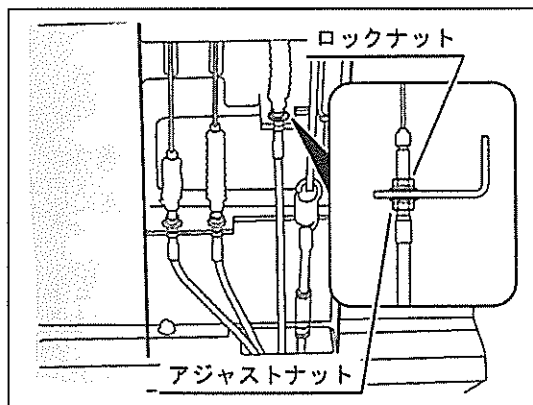


- ③Vベルトの張りを点検します。スプリングの伸びが 3~4mm であるか点検します。適正でない場合にはロックナットを緩めターンバックルで調整します。
- ④Vベルトに損傷が無い点検します。損傷がある場合は交換します。
- ⑤コントロールパネルカバー・ベルトカバーを取り付けます。

9. 駐車ブレーキの調整

ブレーキの効きが甘くなったら調整してください。

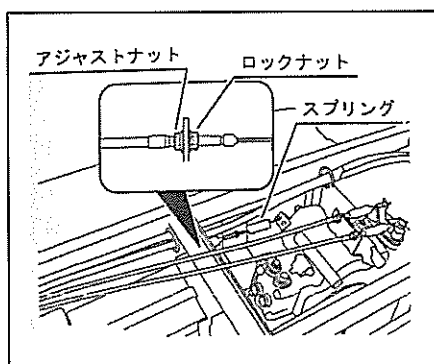
◆レバー側で行う場合



簡単な手入れと処置

- ①コントロールパネルカバーを取り外します。(P23 参照)
- ②走行クラッチレバーを「駐車」にします
- ③ロックナットを緩めます。
- ④スプリングの伸びが 3~4mm になるようにアジャストナットで調整します。
- ⑤コントロールパネルカバーをとりつけます。

◆ブレーキ側で行う場合

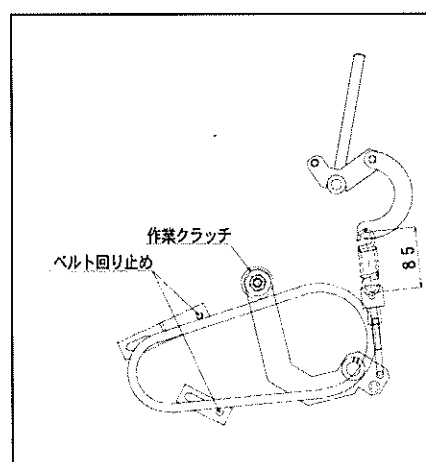
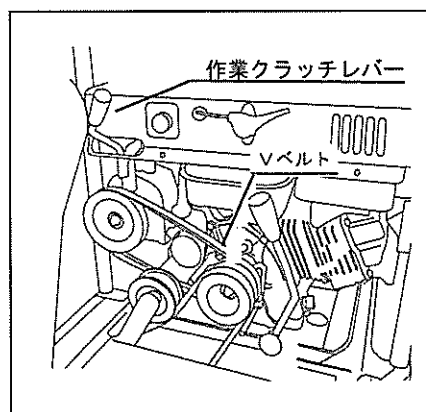


- ①機体をダンプさせてください。(P24 参照)
- ②走行クラッチレバーを「駐車」にします
- ③ロックナットを緩めます。
- ④スプリングの伸びが 3~4mm になるようにアジャストナットで調整します。
- ⑤コントロールパネルカバーをとりつけます。
- ⑥機体を元にもどします。

10. 作業クラッチの調整

散布作業中(始動時は除く) Vベルトのスリップ等が見られましたら調整してください。

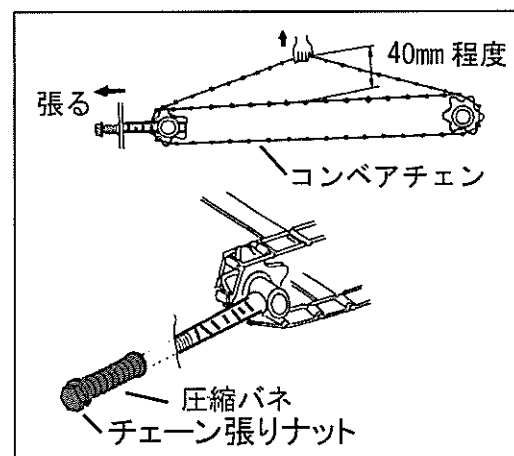
- ①作業クラッチを「入」にします。
 - ②スプリングの内寸法が 85mm になるようにネジで調整してください。
 - ③作業クラッチを「切」にしたとき、クラッチが完全に切れることを確認してください。
- 切れない場合はベルト押えで調整してください。



11. コンベアチェーンの調整

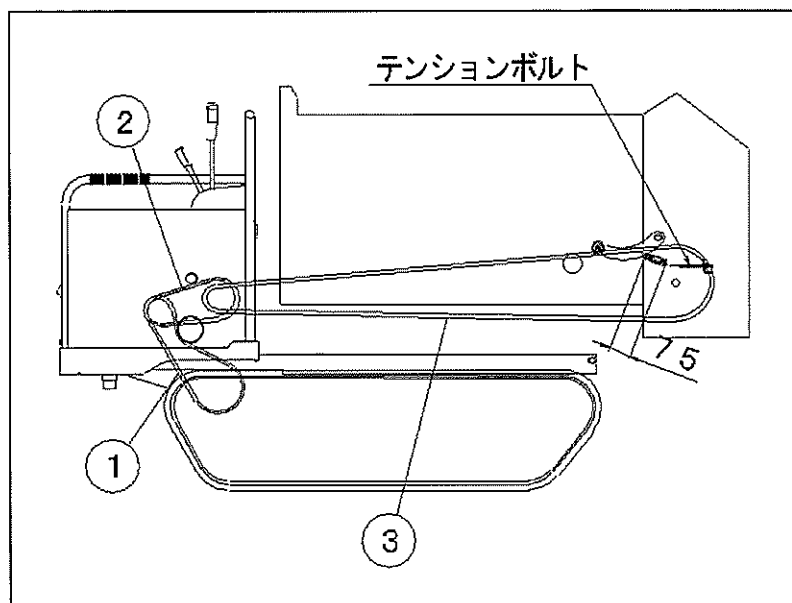
床送りのコンベアチェーンは、長期間使用すると伸びが生じます。

時々、張り具合が規定通りかどうかチェックし、伸びている場合は、機体の前方にあるコンベアチェーン張り用のナットで調節してください。圧縮バネの長さは、長さ 45mm になるように調整してください。バネ長さ調節後ロックナットで固定してください。



簡単な手入れと処置

1 2. 各部のベルトの調整



各Vベルトの調節は次表に従い、行ってください。
ベルトに損傷がある場合は早めに交換してください。

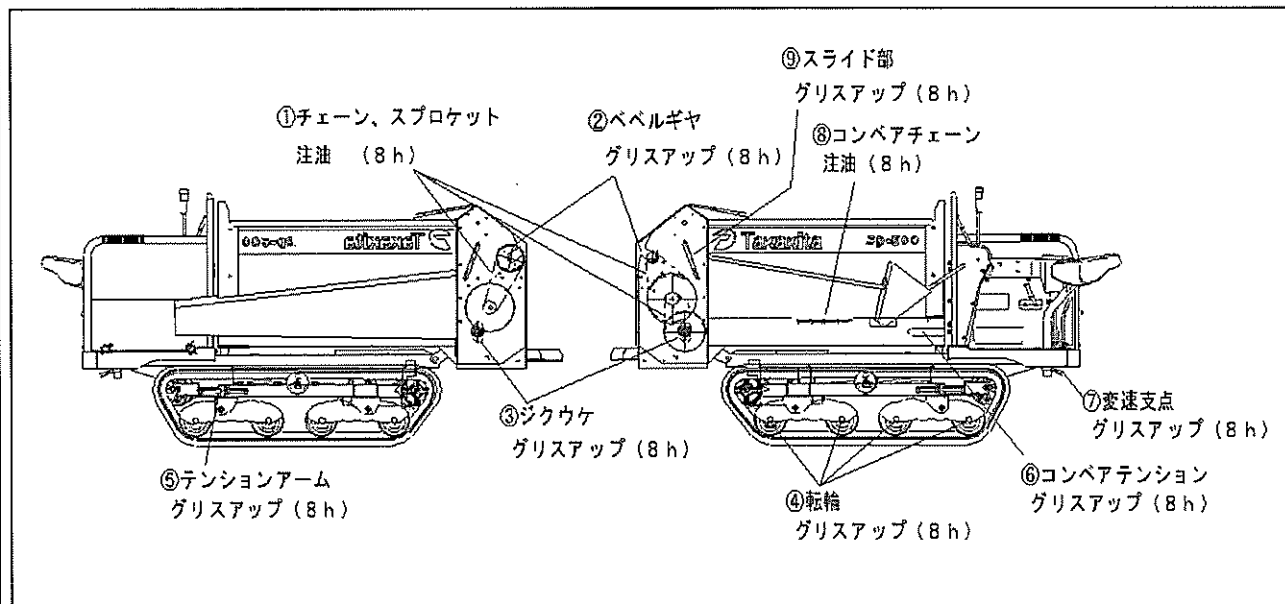
ベルトのサイズ		調 節 方 法	張りの程度
①	LB-40 (スーパーゴールド) (03610-3120-400)	走行クラッチレバーを「切」状態でベルトが止まり、「入」状態で、ベルトが廻っているように、P 26の走行クラッチの調整を参考に調整してください。	ベルトの中央部を指で押し（約3 kg）10～15 mmのたるみがあること。
②	LB-28 (スーパーゴールド) (40106-4162-000)	作業クラッチが「入」の状態でクラッチが入り、「切」の状態で、クラッチが切れているように、P 27の作業クラッチの調整を参考に調整してください。	
③	LA-125 (スーパーゴールド) (40106-4163-000)	ベルトテンションバネ長さが75 mmになるようにバネ調整してください。	

簡単な手入れと処置

1 3. 各部への注油、グリスアップ

主な給油箇所を下図に示します。

指定時間毎に注油、グリスアップを行ってください。



注意

作業条件が悪い場合や、連続作業で稼働時間が長いときは指定時間より早めに注油、グリスアップを行ってください。

⑥コンベアテンションにグリスアップする場合は、機体をダンプしてスプロケット部にグリスアップを行ってください。機体のダンプはP24を参照してください。

1 4. 日常の管理について

- ピーターに堆肥が付着していると散布性能が変化します。いつも、きれいにしておいてください。
- 作業終了後は、常に掃除をするように心掛けてください。

警告

残った堆肥の取出しや掃除をする時は、作業クラッチを切り、エンジンを完全に停止させてから行ってください。

1 5. 長期格納時の手入れ

長期にわたって、ご使用にならない時は次のことを行い本機を保管してください。

- 水洗いをし、付着した堆肥や埃などを落とし、異物を取除いてください。

- 乾燥後は、各回転部・摺動部には充分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、補修塗料等を塗り錆びが出ないようにしてください。
- 各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときには締めてください。
- エンジンの燃料タンクからガソリンを完全に抜いてください。また、燃料パイプ等に残ったガソリンはエンジンを始動し使い切ってください。
- 給油箇所には注油あるいはグリスアップをしてください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。
- 格納は、平坦な所で保管してください。

簡単な手入れと処置

16. 使用済廃棄物の処分について

機械の廃油等廃棄物をむやみに捨てる
と環境汚染になります。機械から廃油を
抜く場合は、容器に受けてください。地
面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対
にしないでください。廃油・燃料・フィ
ルタ・バッテリー・その他有害物を捨てる
ときには、販売店、又は産業廃棄物処理
業者に依頼してください。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●エンジンが始動しない	●メインスイッチ不良 ●燃料タンクにガソリンが入っていない ●燃料コックが「閉」になっている ●燃料に水などの不純物が混入している ●点火プラグが悪くなっている	●交換する ●コネクタ、リード線を点検する ●ガソリンを補給する ●燃料コックを「開」にする ●水抜きまたは新しい燃料にする ●点火プラグを外し、火であぶるか、乾いた布などでよく乾燥させる ●点火プラグのすき間を調整する	12 (エンジンの取説) 12 — —
●エンジンの定格出力が出ない	●エアクリーナが目詰まり ●チョークが戻っていない	●エレメントを清掃する ●チョークを戻す	(エンジンの取説)
●走行しない	●変速レバーが「中立」になっている ●走行用Vベルトがスリップしている ●走行用Vベルトがきれている	●変速レバーをいれる ●Vベルトの張りを調整する ●Vベルトを交換する	14 26 —
●駐車ブレーキが効かない	●駐車ブレーキの調整不良	●駐車ブレーキワイヤの調整をする	26
●旋回しにくくなった	●旋回クラッチワイヤがのびている	●旋回クラッチワイヤの調整をする	25
●散布しない	●作業用Vベルトがスリップしている ●作業用Vベルトが切れている ●ゲートが閉じている	●Vベルトの張りを調整する ●Vベルトを交換する ●ゲートを開ける	28 — 15
●散布量が少ない	●ビータに長ワラ、草などが巻き付き、ビータの作用が不十分 ●ゲートの開きが不十分	●巻き付いているものを除去する ●ゲートを開ける	— 15
●散布幅が狭い	●作業用Vベルトがスリップしている ●ビータの羽根が変形、脱落している ●堆肥を積みすぎている	●Vベルトの張りを調整する ●新しい部品と交換する ●適正な積み方をする	27 — 20
●コンベアが動かない	●シェアボルトが切れている	●シェアボルトを交換する (M6×30 4T 半ネジ)	—

付 表

1. 主要諸元

品名		自走マニアスプレッダ		
型式		SD-500		
ビーター形式		縦ビーター		
車体寸法	全長	2,330mm		
	全幅	1,100mm		
	全高	1,140mm		
地上高	側板地上高	995mm		
	床面高さ	530mm		
機体質量（乾燥）		410kg		
荷台寸法（L×W×H）		1,070×890×465		
最大積載量		500kg（MAX 0.7m ³ ）		
ゴムクローラ寸	クローラ幅	200mm		
	中心間距離	650mm		
	接地長	885mm		
接地圧	空車時	11.3kPa（0.12kg/cm ² ）		
	積載時	25.2kPa（0.26kg/cm ² ）		
旋回方法		爪クラッチ方式		
速度	前	1速	0.6km/h	
		2速	1.0km/h	
		3速	1.6km/h	
		4速	2.2km/h	
		5速	3.7km/h	
	進	6速	6.0km/h	
		後進	1速	0.5km/h
			2速	1.9km/h
エンジン	型式	ロビン EX17		
	出力	定格2.9kW（4.0ps）OHV ガソリンエンジン 最大4.2kW（5.7ps）		
散布幅		1.5m～4.0m		

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

付 表

2. 主な消耗部品

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	員数	備 考
コンベアチェーン	1 1 6 0 1 - 1 3 2 3 - 0 0 0	—	
コンベアバー	1 1 6 1 8 - 1 3 2 0 - 0 0 0	—	
Vベルト (エンジン→走行ミッション)	0 3 6 1 0 - 3 1 2 0 - 4 0 0	1	LB-40 (スーパーゴールド)
Vベルト (エンジン→中間軸)	4 0 1 0 6 - 4 1 6 2 - 0 0 0	1	LB-28 (スーパーゴールド)
Vベルト (中間軸→中間軸)	4 0 1 0 6 - 4 1 6 3 - 0 0 0	1	LA-125 (スーパーゴールド)
ボルト M6×30 4T半ネジ	0 1 1 1 4 - 0 6 0 0 - 3 0 0	1	
ナイロンナット 6	0 2 3 1 1 - 4 0 0 1 - 0 6 0	1	